

3月10日 (木)  
14:00-16:00

## 「難民の友に、難民と共に ～アルペなんみんセンターの事例から、 地域での難民受け入れについて考える～」



### 講師：漆原 比呂志さん

一般社団法人JLMM 事務局長  
NPO法人アルペなんみんセンター 地域連携コーディネーター  
1966年神奈川県鎌倉市生まれ、在住

JLMMより1992年から3年間カンボジア（児童養護施設の職業訓練）に、1995年から3年間ベトナム（中部高原地帯ハンセン病村の生活支援）にコーディネーターとして派遣される。帰国後はカンボジアの子どもの識字教育、女性の収入創出など、日本からの支援にあたる。

2011年から10年間、カトリック東京ボランティアセンター（CTVC）事務局長。東日本大震災の被災者支援に関わった。

上智大学「ボランティア論」非常勤講師、サレジオ中学高等学校および清泉小学校外部講師。

3月19日 (日)  
14:00-16:00

## 「となり近所の多文化共生～芝園団地と霧が丘団地から、10年後の地域社会を考える～」



撮影：浅野剛

### 講師：岡崎 広樹さん

芝園団地自治会事務局長

人口約4,700人の内、約2,600人が外国人の芝園団地に2014年から住み始める。地元外部の学生団体「芝園かけはしプロジェクト」と協働しつつ、外国人住民を交えて地域づくりを進める「開かれた自治会構想」を推進。

2021年にPHP総研から、『隣近所の多文化共生』の課題「芝園団地の実態と実践から」を発表するなど、隣近所が外国人住民の時代を考えるきっかけづくりに精を出す。自治会は2017年度国際交流基金「地球市民賞」を受賞。個人として、2018年度日本青年会議所「人間力大賞総務大臣奨励賞」を受賞。

### 講師：野場 孝司さん

霧が丘インターナショナルコミュニティ（KIC）代表

サラリーマンの傍ら外国人が多く住む自らの居住地域でKICを立ち上げ、地域の多文化共生活動を進める。この居住地域は、40年前に開発された地域であり急速に高齢化が進む一方で、10年ほど前にインド系のインターナショナルスクールがこの地域にできたことをきっかけに、インド人が住むようになっていく。お互いのコミュニティに接点がなく、文化や生活習慣の違いから多くの小さな問題が発生している。ますます多様化する地域において、KICではその地域課題解決のための地域づくりに取り組んでいる。

### コメンテーター：圓山 王国さん

学生ボランティアグループ「芝園かけはしプロジェクト」代表。  
東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程。

2015年、芝園かけはしプロジェクトの立ち上げに関わり、2017年から代表を務める。外国人住民が半分以上を占める芝園団地で、交流イベントづくりや生活案内パンフレットづくりなど、多文化・多世代の住民がともに安心して暮らせる地域づくりを目指し活動している。大学院では、多文化共生のまちづくりを研究している。



- ・ 定員： 各回30名（先着順）
- ・ 対象： 大学生、大学院生
- ・ 参加費： 無料



## セミナー内容

### (1) 「難民の友に、難民と共に～アルペなんみんセンターの事例から、地域での難民受け入れについて考える～」

■日本における難民認定率は非常に低く、その受け入れ政策について長年非難の対象となっています。そのような中、2021年3月、名古屋出入国在留管理局に収容中のスリランカ人ウィシュマ・サンダマリさんが亡くなったことを契機に、難民政策に関する議論の高まりが見られました。そこで、この高まりの本質をしっかりと考え、引き続き、日本の難民政策の問題点について理解を深める必要があります。

神奈川県鎌倉市にある国内最大規模のシェルター「アルペなんみんセンター」では、「名前呼び合える関係」を目指して、難民の方々と地域の人々が交流しています。本セミナーでは、アルペなんみんセンターを中心とした鎌倉市での難民受け入れに関して学び、「地域での難民受け入れ」について深く考えます。

■形式：講義＋グループワーク

### (2) 「となり近所の多文化共生～芝園団地と霧が丘団地から、10年後の地域社会を考える～」

■埼玉県にある「芝園団地」で自治会事務局長を務める岡崎さんは、中国人が多数住んでいる当該団地に住みながら、多文化共生に向けた活動を長年続けています。また、インド人世帯が300以上ある神奈川県横浜市緑区の「霧が丘団地」では、「霧が丘インターナショナル（KIC）代表の野場さんを中心に、多文化共生を目指した活動が進められています。

本セミナーでは、これら2つの団地で活動する岡崎さんと野場さんから、それぞれの団地の特徴についてお話を伺うと同時に、外国人住民と日本人住民がどのようなコミュニケーションを通して共に生活しているのか、実践例を伺います。また、学生団体「芝園かけはしプロジェクト」代表の圓山さんからも、ご自身の体験を通してコメントを伺います。

■形式：講義＋質疑応答

※※参加する際の注意点※※

①スマートフォンからの参加ですと、グループワークをする際に画面が見にくく、積極的な参加が難しいことから、パソコンやタブレットのご利用をおすすめします。

② 当日のセミナー映像の録画、録音、スクリーンショットはご遠慮ください。

## 申し込み方法

・下記申込フォームより、①お名前、②ご所属、③連絡用メールアドレス、④受講を希望するセミナー（複数選択可能）、⑤本セミナーを知ったきっかけを記入し、申し込みをしてください。申込み受付後、申込受付自動返信メールが送られますので、受信ボックスをご確認ください。

※頂いた個人情報は、本セミナー運営に係る業務にのみ利用し、その他の用途で利用致しません。

※当財団事務局からのメールが迷惑メールフォルダやゴミ箱に自動的に振り分けられる可能性がありますので、ご確認頂きますようお願い致します。

申込フォーム：[https://willap.jp/p/acc\\_4614/daigakusei\\_seminar/](https://willap.jp/p/acc_4614/daigakusei_seminar/)



## お問い合わせ

・本セミナーに関するお問い合わせは、下記へお願いいたします。

問い合わせ先：（公財）かながわ国際交流財団（担当：西山）

Email: [seminar@kifjp.org](mailto:seminar@kifjp.org) TEL: 045-620-5045

## ～大学からの視察や講師派遣を募集しています！～

■（公財）かながわ国際交流財団では、多文化共生の社会づくりの一環として、大学の授業に関連する視察の受入れ及び大学への講師派遣を行っています。

<形態>①ゼミやサークル単位での少人数の視察受入（人数の上限10名程度）/②大学への講師派遣

<講義内容>①神奈川県内の外国人住民の状況及び社会の課題/②財団の取組み

詳細およびお申込みはこちらから：<https://www.kifjp.org/student/daigakuprogram>

インスタもやってます！  
kif\_youthで検索！

